

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1471902807
法人名	株式会社 小林留次郎商店
事業所名	グループホーム チェリーホーム森崎
訪問調査日	令和6年3月5日
評価確定日	令和6年4月23日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

#### ○項目番号について

外部評価は23項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和5年度

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471902807	事業の開始年月日	平成17年9月1日
		指定年月日	平成17年9月1日
法人名	株式会社 小林留次郎商店		
事業所名	グループホーム チェリーホーム森崎		
所在地	( 238-0023 ) 横須賀市森崎1-1-21 マルエムビル2・3階		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和6年2月26日	評価結果 市町村受理日	令和6年4月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の中での生活では、いろいろな制限がある中、時間等に縛られず外出の機会や屋上での昼食会などご利用様が、限られた空間の中での生活に飽きることなく毎日が楽しく生活することの喜びをスタッフと協力しあい一緒に楽しみながら笑顔で暮らす日々を大切にしています。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和6年3月5日	評価機関 評価決定日	令和6年4月23日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、株式会社小林留次郎商店の経営です。同法人は横須賀市と三浦市でグループホームを3か所、デイサービスセンター、リハビリデイサービス、小規模多機能型居宅介護支援の事業所を各1箇所ずつ経営しています。ここ「チェリーホーム森崎」は、JR「衣笠駅」からバスに乗り「五郎橋」で下車し徒歩5分、または京浜急行「北久里浜駅」から徒歩10分程の衣笠通りに面した3階建てのビルの2・3階フロアの2ユニットで、1階には小規模多機能型居宅介護の事業所を併設し、運営推進会議や防災訓練で連携しています。事業所の裏手には平作川が流れ、川沿いの道は歩道も整備されており、利用者との散歩コースになっています。

●管理者は、事業所の理念「ゆっくり・楽しく・いっしょにを目指します」から始まる5項目をケアの根幹とし、「職員が楽しければ利用者に対しても良いケアができる、一人ひとりが無理せずケアに臨みたい」との思いを持ち、職員と共に日々のケアに臨んでいます。利用者のADLを維持するため、介護予防のための「ごぼう体操」のDVDを見ながら毎日体を動かしています。屋上にテーブルと椅子を設置して外気浴をしたり、職員と1対1で散歩をするなど、利用者と一緒に楽しく過ごせる様工夫しながらケアを行っています。

●運営推進会議では、施設長の発案で参加者の役に立つ勉強会を実施してきました。「ノロウィルス・感染症」等、高齢の方に関わるその時期に流行していることについて学ぶ機会を持っています。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム チェリーホーム森崎
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「ゆっくり、楽しく、一緒に」をサービスの基本としご利用者のペースに合わせた支援にとりくんでいる。ご利用者の「心身の情報」を把握することが必要な為4カ月毎の居室担当者などの工夫をとりいれている。	法人の理念「ゆっくり・楽しく・いっしょに」から始まる5項目は、事務所に掲示しスタッフ会議で共有しています。入職時には代表から説明をしています。管理者は理念をケアの根幹とし、「職員が楽しければ、利用者に対しても良いケアができる」との思いで、日々のケアに臨んでいます。		今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍によって地域の方々との交流もすっかり途絶えてしまいました。これから少しずつボランティアの方々にも来ていただけるように努力していきたい。	町内会に加入し、回覧板で地域の情報を得ています。コロナ前には、フラダンスや日本舞踊、バンド、三味線等のボランティアの方々に来ていただき、利用者も楽しまれていました。9月の敬老会からは、ボランティアへの声掛けを再開したいと考えています。		今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お年寄りを抱えるご家族より、時々介護相談を気軽に受け入れ、地域の人々に役立てられるよう取り組んでいる。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、毎回民生委員やご家族代表を招き開催している。地域の方の困り事など一緒に考えています。	運営推進会議は2ヶ月に1回、小規模多機能と合同で対面で開催しています。民生委員・家族代表・地域包括支援センターの参加で開催、事業所の現状を報告し、意見等をいただいています。ホームの特長として「勉強会」を実施し、高齢の方に関わるその時に流行している事を学んでいます。		今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政からはFAXやメールが届きます。その都度最新の情報を受けてサービスの向上に努めています。	県や市からの研修の案内は、FAXやメールで届くので、積極的に参加しています。県や市のグループホーム連絡協議会にも加入していますが、活動はあまり行われていません。高齢福祉課の担当者とは、来訪や電話で連絡を取り合っています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所ないで身体拘束廃止委員会を設置し施設長を委員長として毎月の職員会議の際に身体拘束について話し合い、年間4回の身体拘束についての協議や勉強会を開催している。当事業所が「身体拘束廃止推進モデル」でもありますので拘束廃止には特に重点をおいています。	身体拘束廃止委員会を設置し、年4回の研修を行っています。マニュアルも完備し、毎月の職員会議でも身体拘束について話し合い、拘束につながらないよう、職員が見守りに力を入れています。「身体拘束廃止推進モデル」の研修を受講し、他のグループホームからの見学もあります。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修にも職員の参加を順次積極的に促し、虐待防止に対する意識を高めており、代表者、管理者により常に厳しく徹底し、職員もその重要性を認識し、介護に対応している。	身体拘束廃止委員会と兼ねて、虐待防止委員会も開催され、研修を行っています。日頃の勤務中も、職員同士気づいたことは注意しあっています。年2回、チェックシートを活用して、自分のケアを振り返る機会を設けています。日頃から、利用者を優先するよう主地徹底すると共に、職員のストレスにも配慮しています。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、入居者の方で、この制度に該当する方が居られることもあり、この事業に関わる職員としては、制度を熟知する為、外部の研修棟にも積極的に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、努めて複数の親族等に参加して頂き、入念に説明し、努めて契約書を持ち帰って頂き、納得した上で日を改めて締結するよう配慮している。なお、平成17年にこの事業を開始して以来、円滑に事業を展開している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族や知人が気兼ねなくいつでも面会できる雰囲気にも努め居室でゆっくりと過ごしていただいている。	入口に意見箱を設置し、入居時に苦情相談窓口についても説明しています。管理者が月1回、利用者の近況報告を写真を添えて送付し、家族に喜ばれています。現在は面会は制限もなく、居室でしていただいています。意見や要望は管理者が窓口になり、申し送り等で情報を共有しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の運営、活性化の為、毎月職員会議を開催し、職員の意見を尊重し、「業務改善意見」を奨励し反映している。また、介護に対する意欲の増進及び業務の反映、活性化に役立っている。	毎月職員会議を開催し、職員の意見や要望を聞き、申し送りでも共有しています。管理者は、日々の業務中にも職員と話し合いの時間を持ち、日報や申し送りに記載し、改善に繋げています。月2回の訪問診療に向けて、職員から管理者に対して意見が出ることもあり、反映させています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には、処遇改善手当を全員に支給し、キャリアパスの内容を説明して個々のやりがいを持てるよう配慮している。また個人に合わせた勤務体制をとり、職員は理念に基づき自由に働けるよう配慮している。	職員には、処遇改善手当を支給し、資格を取った職員には全額を支給し、やりがいにつながるよう配慮しています。定年制は設けず、希望休や有休はシフトに反映させ、職員のライフワークバランスに配慮しています。向上心を持った職員が多く、知らないことは管理者に聞き、実践しています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員は個人の力量に見合った外部研修にも勤務を調整し、参加しており、施設内への普及研修に繋げ、介護のレベルアップに努めている。資格取得に関してもバックアップする体制を取っている。	入職時には3回程度、OJTで学び、その後は職員個々の力量や状況に合わせて、管理者やケアマネージャがフォローしながら教育しています。毎月の研修計画に沿って、様々なテーマで研修を行い、介護のレベルアップに取り組んでいます。コロナ前には、順番に外部研修の参加も積極的に促していました。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市の協議会による研修には積極的に参加し情報交換はもとより定期的なエリア会議に出席し深い交流関係が持てるよう努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族、担当ケアマネージャー等より詳細に渡しお話を伺い、特に本人が一番困っている事、また不安に思っている事を引き出せるよう傾聴し、解消されるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際し、家族の不安を払拭することに時間をかけている。特に、家族の要望や意向に対しては、よく話し合い信頼関係が築けるよう随時確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	私たちの施設の長所・短所を率直に説明し、ご理解を仰ぎ、状況により他の施設を紹介し抱え込まないように配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす事を前提に、楽しみや悲しみ、苦しみや痛みを分かち合い、一緒に笑ったり、涙したり、利用者とは親族同様の信頼を築き、共に支え合っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、近況報告のお便りを送付し、遠方の親族等には積極的な支援を呼びかけ、結果を期待している。また面会時には、家族としての心配や不安等、気兼ねなく話して頂き、一緒に利用者を支え合う関係作りに努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の面会制限も緩和され定期的に面会に来られる方も多くなりました。居室でお話したり散歩に出かけたりもしています。お出迎えやお見送りには出来るだけ多くの職員が立ち会う様になっている。	面会は時間の制限もなく、居室でしていただいています。事前に連絡をしてくださる方が多く、毎週や月2～3回の面会があります。勤務歴の長い職員が多く、家族も顔見知りで、安心感にもつながっています。昔の友人や知人の来ることもあり、利用者と話が弾んでいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、何気なく隣同士に座ってもらい会話を交わす糸口を作ったり、「個」にならない様に、「仲間」づくりが出来るような雰囲気作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	例えば他施設へ移るような場合は、今後の生活に支障がないように、グループホームでの生活状況を通知、共有して頂き、本人、家族等が孤立等の問題に遭遇した場合は、全面的に支援する。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族の情報を基に入居前の生活を考慮しご利用者の思いを図っています。4カ月毎の居室担当者には考察力を発揮して「心身の情報」の把握に努めています。	入居時に利用者の生活歴や趣味・嗜好等の情報を把握しています。4ヶ月毎の居室担当制を取っており、担当した職員は「私の気持ちシート」に、絵や言葉で利用者の思いや身体の様子を記載しています。情報は共有し、レクリエーションや日々の生活に反映させています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーの問題もあり把握は困難ですが、利用者個々の歴史や経過を把握することは重要である為、家族との信頼感の確保により、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の出来ること、出来ないこと、分かることを把握するのは大切である為、日々の会話や行動、仕草等、見逃さないよう細心の注意を払っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者に一人ずつ担当者を配置し4ヶ月のサイクルで交代しています。体調などの変化を考察して毎月のカンファレンスで報告してもらい介護計画と連動するようになっており、6カ月の計画に繁栄させている。	入居時の情報を基に、初回の介護計画を作成し、3ヶ月様子を見て見直しを行っています。毎月の職員会議の中で、居室担当者を中心に、活動シートを反映させ、ケアカンファレンスを行い、短期で3ヶ月、長期で6ヶ月の現状に即した介護計画を作成しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は毎日（1日3回）表情の変化や仕草や言葉等、小さな変化も介護日誌に記入し、情報を共有すると共に、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族等の要望により、一時帰宅等の要請があれば、送迎を含み臨機応変に対応している。また、通院等も家族の事情を考慮し対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会には加入しており、町内のお祭りや盆踊り、餅つき等で利用させて頂いている。今後、地域包括支援センターや地域のボランティア等、必要に応じて支援、協働頂ける体制作りをしていく。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者全員が事業所のかかりつけ医を受診しています。月2回の定期往診と24時間オンコールによる体制をとっている。訪問歯科と精神科は月1回の往診があります。	現在は、利用者全員が事業所のかかりつけ医を受診しています。かかりつけ医から月2回の訪問診療と、看護師による週1回の健康相談があります。入居前からの歯科を受診している方には月1回の往診があり、精神科からも月1回の往診があります。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の生活の中から個別の健康管理を実施している。その上で看護職員（医療連携）により受診の必要の可否等の判断を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者が発生した場合は、家族、病院と協議し、協同連携している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族からしっかりとヒアリングし希望に沿ったケアを協力機関と連携して提供していきます。状態に応じて適切なケアを行える様職員間で情報を共有しています。	契約時に、重度化や看取りについて、指針を基に説明し、同意をいただいています。状態の変化に応じて、医師・家族・事業所の三者で話し合いを行い、方向性を確認したうえで再度同意書を交わしています。「看取りケア」についての研修も行っています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホーム協議会の講習を通してほとんどの職員が普通救命の講習を受け、急変や緊急時に対応できるよう備えている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災管理者を選任して年間2回消防署の指導の下防災訓練を実施している。備蓄に関しても飲料水や食料なども用意している。	防災管理者を選任し、年2回3施設合同で、消防署指導の下、火災や地震に備えて防災訓練を実施しています。その際、参加できる利用者にも訓練に参加していただくようにしています。備蓄は、米・缶詰・などの食糧を3日分、5年対応の保存水、カセットコンロ、ボンベなどを用意しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し丁寧な言葉遣いでゆっくり声掛けを行なっている。個人のプライバシーに関する話題には特に気を付けて対応している。	入職時に、個人情報や倫理について説明しています。利用者への接し方や言葉遣いは、年間研修計画で「接遇」を取り上げ、学んでいます。個人のプライバシーに関することは、職員同士特に気を付け、利用者の話をするときには小声でイニシャルを使って話すなど、日々心掛けています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、意図的に選んで頂く場面を作っている。また会話の中でも思いや希望を表せるよう配慮している。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のペースやリズムに合わせ、その時に“やりたいこと”や“行きたい所”をくみ取り、実行に移している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をしている方は、化粧品は自己管理としている。自分で管理することで、お化粧をすることを思い出している。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の誤嚥に気をつけながら食事を楽しく召し上がられる様雰囲気を配膳前からつくる様心がけている、食べ易い様調理、盛り付けを食器から気をつけている。	毎食時に口腔体操を行い、誤嚥の無いよう気を付けています。利用者と職員が同じ食事を食べ、楽しみながらさりげなく支援しています。食器拭きや片付けなどを出来る方をお願いしています。ちらし寿司やセタソーメン、誕生日のケーキなどの行事食、白玉ぜんざい、おはぎなども楽しんでいます。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の食事、水分の1日の摂取量を把握し、介護日誌へと記載し、バランスを確保するよう努力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き、義歯の手入れ、出血や炎症のチェック等、利用者の力を引き出しながら口腔内の清潔を日常的にそれとなくチェックしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を利用しながら声掛けやトイレ誘導を行い必要なケアを行っている。声掛けが必要な方には普段と違う様子の時には、適宜誘導を行っている。	排泄表を付け、利用者の排泄パターンの把握に努めています。自立の方には、報告をいただき記入していますが、間隔が空いた場合には、声掛けし誘導を行っています。排泄の失敗があった場合には、ケア会議で検討しています。夜間のみ、ポータブルトイレを使用している方もいます。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便を促す為、水分補給、繊維食品及び運動等、毎日の生活の中で継続的に対応している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴を拒否される方はおらず、楽しく入浴して頂く為お話ししたりその人い合った浴槽の温度に調整し苦痛のない様に行っている。	週2回の入浴が出来るよう支援しています。入浴前にはバイタルチェックをし、本人の意思を確認した上で入っていただいています。気持ちよく入っていただくために、職員は楽しく会話することを心掛けています。ゆず湯や菖蒲湯、気分を変えて入浴剤を使うこともあります。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほとんどの方は薬も使わずに安眠できている。日勤者、夜勤者間の申し送りをしっかりと行い、夜眠れない利用者には日中の活動に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について職員はある程度掌握している。なお、新しく処方される際には、主治医又は薬剤師により解説を受けている。日常の変化、状況については細部にわたり看護師、医師に報告するよう努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの利用者の特長、趣味を把握することで、生き甲斐に繋がるよう支援している。なお高度の認知症の方には色々な事を提供し、反応を見ながら楽しめることを見つけていけるよう支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や気温を考慮しご本人も伺いながら事業所の周辺を散歩にお連れしたり本人の体力やADLに合わせておこなっています。	天候や体調を考慮して、1対1で散歩にお連れしています。裏手に流れる平作川には、カモやシラサギが飛来してくるので、散歩時の利用者の楽しみになっています。近くのコンビニまで行くこともあります。また屋上に机と椅子を並べて外気浴を行い、気分転換出来るようにしています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持していないと不安になったり、ご自身で買い物をするのが楽しみな方も居られる。自己管理出来る方には所持金額はご家族と相談し、ご自身で管理して頂いて。また自己管理出来ない方は、お小遣い帳をつけ、こちらで管理しており、買い物に出かける際には使って楽しんで頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価 実施状況	外部評価 実施状況 次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書けない方が多数を占めているが、それとなく誘い毎年ご家族への年賀状は利用者を書いて頂いている。また、電話のダイヤルを支援すれば会話が出来るので、状況を判断し実施している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく居心地の良い空間を常に意識し、台所は、皆さんが集まる談話室と同空間である。食事の支度や美味しそうな匂いがして、家庭に居るような雰囲気でも過ごしていただいている。	ほとんどの利用者が共用空間で過ごしていることもあり、明るく居心地の良い空間を意識しています。台所に隣接しているため、料理の美味しそうな匂いを感じることができ、家庭にいるような雰囲気を醸し出しています。季節の飾り（凧やクリスマスの飾り）を利用者の届かない高さに飾っています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、所々にソファを配置しゆったりした時間が持てるようになっている。廊下の先には外を眺めることのできるサッシがあり2～3人で話が盛り上がっていることもある。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具を搬入して頂き、落ち着いた雰囲気を確保し、利用者それぞれの好みに応じた居室を作っている。また利用者の要望を尊重し、利用者と共に居室内の様態替えや飾り付けも行っている。	居室には、ダンスやベッド、エアコン、防災カーテンが完備されています。入居時に、本人が使い慣れたものや家具、テレビや座布団、ラジカセ等を持ち込んでいただき、好みの部屋になるよう支援しています。居室担当職員が、日々の整理整頓や備品のチェック等を行っています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行に不自由な方も、トイレ、食堂等に自立で移動できるように手すりをつけ、その方にあった介助の方法を職員で話し合い、成果を上げている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム チェリーホーム森崎

作成日

令和6年3月5日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ禍でボランティアを招く事が出来ず施設内だけでの小規模なイベントしか行えていない。他者との交流機会の損失。	季節事の大きな行事の際にはボランティアの方に来て頂く。	インターネットや社協伝手を通して探し、利用者様の楽しい時間を増やしていく。	1年
2	33	看取りケアを行う機会が少ない為、研修は行っているが経験が少ないスタッフもいる。	終末期の身心の状況の理解と知識を共有し苦痛の無い生活を送って頂ける様にする。	内部研修を通して、より細かいケアの方法や深い知識を勉強し研修会にもどんどん参加していく。	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホーム チェリーホーム森崎
ユニット名	3階

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「ゆっくり、楽しく、一緒に」をサービスの基本としご利用者のペースに合わせた支援にとりくんでいる。ご利用者の「心身の情報」を把握することが必要な為4カ月毎の居室担当者などの工夫をとりいれている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍によって地域の方々との交流もすっかり途絶えてしまいました。これから少しずつボランティアの方々にも来ていただけるように努力していきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お年寄りを抱えるご家族より、時々介護相談を気軽に受け入れ、地域の人々に役立てられるよう取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、毎回民生委員やご家族代表を招き開催している。地域の方の困り事など一緒に考えています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政からはFAXやメールが届きます。その都度最新の情報を受けてサービスの向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所ないで身体拘束廃止委員会を設置し施設長を委員長として毎月の職員会議の際に身体拘束について話し合い、年間4回の身体拘束についての協議や勉強会を開催している。当事業所が「身体拘束廃止推進モデル」でもありますので拘束廃止には特に重点をおいています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修にも職員の参加を順次積極的に促し、虐待防止に対する意識を高めており、代表者、管理者により常に厳しく徹底し、職員もその重要性を認識し、介護に対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、入居者の方で、この制度に該当する方が居られることもあり、この事業に関わる職員としては、制度を熟知する為、外部の研修棟にも積極的に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、努めて複数の親族等に参加して頂き、入念に説明し、努めて契約書を持ち帰って頂き、納得した上で日を改めて締結するよう配慮している。なお、平成17年にこの事業を開始して以来、円滑に事業を展開している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族や知人が気兼ねなくいつでも面会できる雰囲気努め居室でゆっくりと過ごしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の運営、活性化の為、毎月職員会議を開催し、職員の意見を尊重し、「業務改善意見」を奨励し反映している。また、介護に対する意欲の増進及び業務の反映、活性化に役立っている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には、処遇改善手当を全員に支給し、キャリアパスの内容を説明して個々のやりがいを持てるよう配慮している。また個人に合わせた勤務体制をとり、職員は理念に基づき自由に働けるよう配慮している。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員は個人の力量に見合った外部研修にも勤務を調整し、参加しており、施設内への普及研修に繋げ、介護のレベルアップに努めている。資格取得に関してもバックアップする体制を取っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市の協議会による研修には積極的に参加し情報交換はもとより定期的なエリア会議に出席し深い交流関係が持てるよう努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族、担当ケアマネージャー等より詳細に渡りお話を伺い、特に本人が一番困っている事、また不安に思っている事を引き出せるよう傾聴し、解消されるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際し、家族の不安を払拭することに時間をかけている。特に、家族の要望や意向に対しては、よく話し合い信頼関係が築けるよう随時確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	私たちの施設の長所・短所を率直に説明し、ご理解を仰ぎ、状況により他の施設を紹介し抱え込まないように配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす事を前提に、楽しみや悲しみ、苦しみや痛みを分かち合い、一緒に笑ったり、涙したり、利用者とは親族同様の信頼を築き、共に支え合っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、近況報告のお便りを送付し、遠方の親族等には積極的な支援を呼びかけ、結果を期待している。また面会時には、家族としての心配や不安等、気兼ねなく話して頂き、一緒に利用者を支え合う関係作りに努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の面会制限も緩和され定期的に面会に来られる方も多くなりました。居室でお話したり散歩に出かけたりもしています。お出迎えやお見送りには出来るだけ多くの職員が立ち会う様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、何気なく隣同士に座ってもらい会話を交わす糸口を作ったり、「個」にならない様に、「仲間」づくりが出来るような雰囲気作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	例えば他施設へ移るような場合は、今後の生活に支障がないように、グループホームでの生活状況を通知、共有して頂き、本人、家族等が孤立等の問題に遭遇した場合は、全面的に支援する。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族の情報を基に入居前の生活を考慮しご利用者の思いを図っています。4カ月毎の居室担当者には考察力を発揮して「心身の情報」の把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーの問題もあり把握は困難ですが、利用者個々の歴史や経過を把握することは重要である為、家族との信頼感の確保により、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の出来ること、出来ないこと、分かることを把握するのは大切である為、日々の会話や行動、仕草等、見逃さないよう細心の注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者に一人ずつ担当者を配置し4ヶ月のサイクルで交代しています。体調などの変化を考察して毎月のカンファレンスで報告してもらい介護計画と連動するようになっており、6カ月の計画に繁栄させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は毎日（1日3回）表情の変化や仕草や言葉等、小さな変化も介護日誌に記入し、情報を共有すると共に、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族等の要望により、一時帰宅等の要請があれば、送迎を含み臨機応変に対応している。また、通院等も家族の事情を考慮し対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会には加入しており、町内のお祭りや盆踊り、餅つき等で利用させて頂いている。今後、地域包括支援センターや地域のボランティア等、必要に応じて支援、協働頂ける体制作りをしていく。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者全員が事業所のかかりつけ医に受診しています。月2回の定期往診と24時間オンコールによる体制をとっている。訪問歯科と精神科は月1回の往診があります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の生活の中から個別の健康管理を実施している。その上で看護職員（医療連携）により受診の必要の可否等の判断を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者が発生した場合は、家族、病院と協議し、協同連携している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族からしっかりとヒアリングし希望に沿ったケアを強力機関と連携して提供していきます。状態に応じて適切なケアを行える様職員間で情報を共有しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホーム協議会の講習を通してほとんどの職員が普通救命の講習を受け、急変や緊急時に対応できるよう備えている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災管理者を選任して年間2回消防署の指導の下防災訓練を実施している。備蓄に関しても飲料水や食料なども用意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し丁寧な言葉遣いでゆっくり声掛けを行なっている。個人のプライバシーに関する話題には特に気を付けて対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、意図的に選んで頂く場面を作っている。また会話の中でも思いや希望を表せるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のペースやリズムに合わせ、その時に“やりたいこと”や“行きたい所”をくみ取り、実行に移している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品をしている方は、化粧品は自己管理としている。自分で管理することで、お化粧品をすることを思い出している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の誤嚥に気をつけながら食事を楽しく召し上がられる様雰囲気を配膳前からつくる様心がけている、食べ易い様調理、盛り付けを食器から気をつけている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の食事、水分の1日の摂取量を把握し、介護日誌へと記載し、バランスを確保するよう努力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き、義歯の手入れ、出血や炎症のチェック等、利用者の力を引き出しながら口腔内の清潔を日常的にそれとチェックしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を利用しながら声掛けやトイレ誘導を行い必要なケアを行っている。声掛けが必要な方には普段と違う様子の時には、適宜誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便を促す為、水分補給、繊維食品及び運動等、毎日の生活の中で継続的に対応している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴を拒否される方はおらず、楽しく入浴して頂く為お話ししたりその人い合った浴槽の温度に調整し苦痛のない様に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほとんどの方は薬も使わずに安眠できている。日勤者、夜勤者間の申し送りをしっかりと行い、夜眠れない利用者には日中の活動に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について職員はある程度掌握している。なお、新しく処方される際には、主治医又は薬剤師により解説を受けている。日常の変化、状況については細部にわたり看護師、医師に報告するよう努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの利用者の特技、趣味を把握することで、生き甲斐に繋がるよう支援している。なお高度の認知症の方には色々な事を提供し、反応を見ながら楽しめることを見つけていけるよう支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や気温を考慮しご本人も伺いながら事業所の周辺を散歩にお連れしたり本人の体力やADLに合わせておこなっています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持していないと不安になったり、ご自身で買い物をするのが楽しみな方も居られる。自己管理出来る方には所持金額はご家族と相談し、ご自身で管理して頂いてる。また自己管理出来ない方は、お小遣い帳をつけ、こちらで管理しており、買い物に出かける際には使って楽しんで頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書けない方が多数を占めているが、それとなく誘い毎年ご家族への年賀状は利用者を書いて頂いている。また、電話のダイヤルを支援すれば会話が出来るので、状況を判断し実施している。			
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく居心地の良い空間を常に意識し、台所は、皆さんが集まる談話室と同空間である。食事の支度や美味しそうな匂いがして、家庭に居るような雰囲気でも過ごしていただいている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、所々にソファを配置しゆったりした時間が持てるようになっている。廊下の先には外を眺めることのできるサッシがあり2～3人で話が盛り上がっていることもある。			
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具を搬入して頂き、落ち着いた雰囲気を確保し、利用者それぞれの好みに応じた居室を作っている。また利用者の要望を尊重し、利用者と共に居室内の模様替えや飾り付けも行っている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行に不自由な方も、トイレ、食堂等に自立で移動できるように手すりをつけ、その方にあった介助の方法を職員で話し合い、成果を上げている。			

# 目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム チェリーホーム森崎

作成日

令和6年3月5日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ禍でボランティアを招く事が出来ず施設内だけでの小規模なイベントしか行えていない。他者との交流機会の損失。	季節事の大きな行事の際にはボランティアの方に来て頂く。	インターネットや社協伝手を通して探し、利用者様の楽しい時間を増やしていく。	1年
2	33	看取りケアを行う機会が少ない為、研修は行っているが経験が少ないスタッフもいる。	終末期の身心の状況の理解と知識を共有し苦痛の無い生活を送って頂ける様にする。	内部研修を通して、より細かいケアの方法や深い知識を勉強し研修会にもどんどん参加していく。	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。